

# 「女性の活躍」というけれど

2014. 11. 15  
東京新聞

コチカラ・ニッポン代表  
川島高之さん



かわしま・たかゆき 1964年、神奈川県生まれ。慶応大卒業後、大手商社に入社、2012年、系列の資産運用会社社長に。NPO法人コチカラ・ニッポン代表、ファザーリング・ジャパン理事。

## 成熟社会を築く要



「女性の活躍推進」は当然の流れだと思います。北欧をはじめ欧米などの成熟した国々は、多様性や機会平等の方向に向かっている。しなやかさや持続性、目先の利害に走らない長期的視

野、環境問題への高い意識などが、成熟社会では求められています。経済成長のためにでなく、成熟社会になるために、女性の活躍を推進したい。経済成長した

女性の「活用」と言う人がいます。まだにいますが、そういう上から目標の発想がおかしい。男女の性差を理解した上で、女性に得意なことを生かしてもらおうのは会社経営上、必須条件です。労働人口が足りないからと女性を入れ、足りるようになったらまた切るのではない。



ら幸せになるといって成長神話はそろそろ看板を下ろしていい。成長社会では、極論すれば、環境が汚れようが、過労で誰が倒れようが、猪突猛進で人を軍隊のように働かせてきました。

従来の家庭や地域での女性の活躍をきちんと認識しなくては。専業主婦を否定するのは本末転倒。少子化や地域の衰退が言われる中、子育ては大切です。女性が企業で活躍すること、男性が家庭や地域で活躍することとは表裏一体で、男性社員には、会社に引きこもらず、地域や家庭に出て行ったほうが良いと言っています。その方が子どもや地域にとっていいし、男性も人間力を高めることができる。

ただ女性も男性も、生活重視の権利を会社や上司に主張する前に会社での職責を果たすこと。私は非イクメンの1・五倍の成果を出す気で仕事に臨んできました。ビジネスの世界は厳しい。その意識があつて生活が充実していれば、自分で考

コラ  
れば、管理職になりたいという女性も増えるでしょう。

「女性の活躍」推進 政府が掲げる成長戦略の中で、女性登用は中核と位置付けられた。背景には、少子高齢化に伴う労働力人口の減少がある。政府は既に2003年、「社会のあらゆる分野において、20年までに、指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度になるよう期待する」という目標を設定。この目標実現のため、今国会に推進法案を上程した。法案は、大企業や国、地方自治体に独自の数値目標設定と公表を義務付けている。

し入れたそうです。今までは前日だったので、徹夜で答弁書の準備をしていた。それだと、徹夜ができる人しか仕事ができないというんです。官僚の世界も今や二十代は三割が女性。彼女たちが辞めれば人手不足になるので、子育て世代の男性官僚も応援しているそうです。女性が日本全体の働き方改革の推進役なんです。(聞き手・小田昌孝)

聞き手・稲葉千寿